

4) こどもの症状をよく知っている人が連れて行きましょう。

受診の際にはこどもの症状や様子、食事の状況、飲ませた薬などを説明できる人が連れて行きましょう。

5) 受診時に持っていくとよいもの。

母子手帳・保険証・乳幼児医療費受給資格者証・診察券
熱などの症状の経過のメモ（熱の推移についてのグラフ）
便の様子がおかしいときは、便（オムツ）
病院でもらった薬の名前（薬剤情報、お薬手帳）
ティッシュペーパー・タオル・着替え・替えオムツ
お気に入りのおもちゃや絵本



※ 全国的な医師不足の中、本県の小児救急医療を取り巻く環境は、日に日に厳しさを増しています。時間外に診察が受けられるから、便利だから受診するといういわゆるコンビニ受診は控えましょう。時間外の診療はあくまで救急の対応を目的としたもので、昼も夜もほぼ同じ品揃えのあるコンビニエンスストアとは異なります。小児の時間外救急は実際に軽症の患者さんがほとんどです。軽症の患者さんが多く受診することで、処置を急がなければならない重症患者さんへの対応が遅れてしまうことも問題視されています。しかし、急いで受診すべきだったお子さんが、朝まで待ったために重症化してしまうことはもっと良くありません。お子さんの症状が緊急に受診すべきものか、朝まで待てるのか正しく判断するためにこのガイドブックを十分に活用してください。